【座間味村】

１人１台端末の利活用に係る計画

１．１人１台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

予測困難な時代で先行きが不透明な時代を生き抜くためには、生涯にわたって学び続けることが求められている。個別最適な学びでは、児童生徒のペース、方法、理解度、興味関心も少しずつ異なり、児童生徒が納得するやり方で進めていく。また一人で学ぶに時間的な制約があり、協働的な学びが必要となり、友達と対話を通し、またクラウド上で友達の考えを参照し、感化される場面等が想定される。

座間味村教育大綱の施策において、「島の宝！子供にやさしい地域づくり」のなかでICTを活用した先進的な学校教育の推進が掲げられており、これまで以上に、個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実し、児童生徒が主体的に学び、児童生徒が対話的に学ぶ、児童生徒の資質・能力の育成につなげていくことを目指す。

２．GIGA第１期の総括

コロナ禍で、オンライン授業等を通して、端末の利活用が一定程度進むこととなった。また、Google Workspace、Teams等を利用した校内での資料の共有や情報を共有する仕組みも一定程度定着し、コロナ禍の経験を活かした実践が広がっている。

一方で、学校間や担当する教諭によって利活用の差も出てきている。学習の基盤として「情報活用能力の育成」には、１人１台端末を活用した実践が不可欠である。先進的な取組を行う学校の見学や、外部講師によるミニ研修等の充実、校務や研修での利活用を十分に体験し、授業等で実践が広げていくことが必要とされている。

３．１人１台端末の利活用方策

今回の端末整備・更新にあたり、教育 DX フェローの設置を検討し、外部専門家の助言による更なる端末を活用した授業の充実と教職員の校務効率化、研修機会の充実を図り、クラウド環境の活用を促進する。これにより、授業内外での端末活用をさらに拡大し、児童生徒の学びを豊かにすることを目指す。

１人１台端末の日常的な活用に向けては、国の動向や県の動向を踏まえつつ、新しい授業観に合わせた理論的な研修を充実させる。端末の活用はあくまで手段であり、目的は児童生徒の学びを深めることにあるという理解を深める。

具体的には、探究の学習過程や問題解決のプロセス（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・発表）を通して、端末の活用を促進する。学習者主体の授業では、児童生徒に委ねる場面が増え、学習形態も一斉型から個別型へと変化します。そこで、教科の学習においても探究の学習過程を取り入れ、各過程で児童生徒が１人１台端末を活用できる場面を増やしていく。

児童生徒は、自己の課題に合わせて、教科書、資料集、NHK for school などの動画、Web サイトなどから必要な情報を収集し、１人１台端末で整理・分析する。その際、友達と対話し、協働する。また、クラウド上で友達の考えを参照しながら学習を進める。整理・分析後は、友達と対話し、思考を整理します。必要に応じて、友達や先生と意見交換を行い、学習内容をまとめていく。

１人１台端末の活用による学びの保証に向けては、不登校児童生徒への支援については、オンライン授業の実施、GoogleClassroom、Teams 等で授業資料を共有する。校内では、コミュニケーションツール等で連絡を密にして校内での体制を強化していく。

さらに、電子図書館の導入等により、離島地域の条件的不利の解消を行い、これまで以上に活字に触れる機会をつくり、子どもたちの想像力や発想力を育んでいく。

外国児童生徒に対する学習活動等の支援では、Google 翻訳や翻訳ツール等のアプリケーションも有効活用しながら学習活動を活かしていく。また、生成 AI 等も活用し、文書作成の支援や教師側の提示資料の作成等にも役立てていく。

障害のある児童生徒や特別な支援を要する児童生徒に応じた支援については、手書き入力でのテキスト変換機能、音声入力を活用したテキスト入力など支援の状況に応じた必要な環境を整え、支援の充実を図る。

利活用の方策や実践を推進するためには、県内外の先進地域の授業視察を行い、その取り組みから学び、自校の実践に活かしていきます。

沖縄県教育庁県立学校教育課教育 DX 推進室との連携による研修支援や授業改善、文部科学省学校 DX 戦略アドバイザーや GIGA StuDX 推進チームによる研修支援・授業支援なども計画し、１人１台端末の活用を促進していきます。